

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第六主日礼拝のしおり

2023 年 2 月 12 日

前奏

招きのことば：詩編 119 編 1-8 節

いかに幸いなことでしょう まったき道を踏み、主の律法に歩む人は。
いかに幸いなことでしょう 主の定めを守り 心を尽くしてそれを尋ね求める人は。
彼らは決して不正を行わず 主の道を歩みます。
あなたは仰せになりました あなたの命令を固く守るように、と。
わたしの道が確かになることを願います あなたの掟を守るために。
そうなれば、あなたのどの戒めに照らしても 恥じ入ることがないでしょう。
あなたの正しい裁きを学び まっすぐな心であなたに感謝します。
あなたの掟を守ります。どうか、お見捨てにならないでください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは人から見下げられたらとてもいやな思いがします。けれども私たち自身も人を見下げることがあります。私たちは抵抗し難い誘惑にさらされることがあります。自分に与えられた夫婦の関係を超えて、あるいは将来の夫婦となる方との関係を超えて、自分の欲に任せて一時的な満足に走ります。家庭での信頼をないがしろにすることは大きな罪です。言葉で簡単に人を傷つけたり人の評判をおとしめる人もおります。神様、どうぞそのような罪から私をまもってください。むしろイエス様によって私たちの罪を赦して、私たちが人を尊敬し、家庭を大切にし、自覚と責任をもって人を生かし、人を立て上げることを発するものとしてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コリント人への第一の手紙 3章 1-9 節

兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語りことができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分にに応じて仕えた者です。わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることになります。わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

福音書朗読：マタイによる福音書 5章 21-37 節

「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそ

ここで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。はっきり言うておく。最後のクアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。」

「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」

「『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

「また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台である。エルサレムにかけて誓ってはならない。そこは大王の都である。また、あなたの頭にかけて誓ってはならない。髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」

讃美歌 334 番

- 1 偽りの世に 別れを告げ 罪とけがれを 打ち退け
ただひたすらに我は慕う とわに変わらぬ 天(あま)つ国を
- 2 神の御子なる わが主イエスよ みむねのままに 導きませ
苦しみ 我に 迫り来とも 御力をもて 強めたまえ
- 3 心の内に 照り映(は)ゆるは イエスの十字架の み光のみ
御名をたたえて われ安けく 死のおおなみを 乗り越え行かん
- 4 み腕にすぎる しもべの名を いのちの書(ふみ)に しるしたまえ
主はまことにぞ ましませると 天つ国にて 我は歌わん アーメン

説教：「早く和解しなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は正しいことを語っておられます。人を殺してはなりません、と言われると、みんなそれはそうだ、人を殺すことはよくないことだ、とわかるでしょう。しかし、人はうわべを見ますが、神様は心を見ます。実際には人を殺してはいないけれど、あんな人はいなくなったらいい、とか、あの人のせいで私はこんな被害を被った、あの人は許せない、と思ったことはないですか。イエス様は、兄弟に腹を立てる者は誰でも裁きを受ける、と言われる。あなたの心は人の目には見えませんが、神様はご存じです。憎しみが昂じて、あんな人はいなくなったらいいのに、という気持ちはあなたの罪です。人の命は神様が握っておられます。神様にかわってあなたが人の命や幸いを左右しようとすることは、神様への罪なのです。

反対に、誰かからあなたが憎まれていたらどうでしょうか。イエス様は、取り返しのつかないことになる前に、自ら出かけて和解を求め、仲直りできるようにしなさい、と命じています。

自分の夫や妻ではない人と夫婦のように仲良くしたいという欲望が起こることもあるでしょうか。イエス様は家庭をとて大切なものだと教えています。そんな心を持つ人はすでに姦淫の罪を犯したと同じだ、と言われる。その原因になるなら、目でも手でも捨ててしまっただけで誘惑がなくなるとするならば、体全部が地獄に落ちるよりよほどましです、ともいわれました。妻を離縁することも許されません。神様が夫婦をきずなで結びます。ですから神様が結ばれたものを神様にかわって引き離すことは、当事者でも許されません。それは神様への罪なのです。

神にかけて誓います、と時々聞きますが、普段から自分の語る言葉が真実ならば、特別なときだけ信じてもらうために神様のお名前をわざわざ出す必要はないでしょう。天にかけて誓ったり、地にかけて誓ったりせず、自分の語る言葉がそのまま信頼される人であることが正しいことです。自分の心のまを口は語ります。心を制することができないと、口を制することはできません。あなたの身勝手な目的のために神様のお名前を出すことは神様に対する罪です。

厳しいことですね。しかし、イエス様は正しいことを語っておられます。人を憎むな、早く和解せよ、よくない性的な欲望に燃えるな、信頼される言葉をいつも語るように、というのはもっともなことです。それができればたいへん幸いな生涯を送ることになるでしょう。

さて、このような正しいことを命じられたイエス様ご自身はどんなお方だったのでしょうか。イエス様はご自分の語られたように全く正しく生きられました。イエス様は誘惑に打ち勝って歩んでくださいました。神様のみ旨のとおり正しく歩まれました。罪と戦いましたが、罪をおかすことはありませんでした。そのイエス様が私たちに正しいことをお命じになります。

では、どうすればイエス様のおっしゃる通りに正しく生きることができるのでしょうか。それは私たちにはできません。どんなにがんばっても、やっぱりどうしても悪い誘惑に負けてしまう私たちです。しかし、イエス様が十字架にかけられたときに言われたことを思い出してください。十字架の上で、自分を殺そうとしている敵たちのことを父なる神様に「父よ、彼らをゆるしてください。彼らは自分で何をしているのか、わからないでいるのです」と祈られました。

この祈りは、イエス様が悪い思い、悪い行い、悪いことばをやめることができない私たちを罰しないようにと、父なる神様にとりなしてくださっている祈りでもあります。イエス様は私たちの罪のために、死んでくださいました。私たちのために、神様の罰を受けてくださいました。

そして、イエス様は十字架で死んでくださって罪の赦しをお与えくださったあとで、よみがえってくださいました。イエス様を信じる信仰によって、神様は信じる私たちにも新しい命を与えてくださいます。イエス様のような心で歩むことができる心です。イエス様は私たち罪深い者のために十字架で死んでくださいました。悪魔の力も、罪の力も、死の力も、全て飲み込んでくださって、よみがえってくださいました。絶望の中にあっても、そこに絶望を飲み込んでくださったイエス様がおられます。洗礼によって、イエス様はあなたの罪も飲み込んでくださいます。更にあなたの心を新しくして、イエス様に似た者になしてください。

ですから勇気を持ちましょう。正しく歩みましょう。私たちは自分自身は罪びとで、思うこと、語ること、なすことは自分中心でわがままなことしかないと知っています。絶望的です。しかし、私はどうせ罪深い者だから、悪いことをしてしまっても、仕方がないと無気力にならないでください。イエス様を信じて洗礼を受けるとき、私たちは罪と死に打ち勝ってよみがえってくださったイエス様によって新しい命を受けます。新しい命が始まります。洗礼によって始まったこの命は、福音のみ言葉の説教を聞き続けて、イエス様の血と体にあずかる聖餐式を受けて歩んでいくとき、育てられていきます。

神様から罪赦されて新しい命に生きる今、自分中心でわがままな心が誘惑によって正しくないことに誘われるとき、思い切ってその場で神様にお祈りすることができます。目には見えませんが、そこにイエス様はいてください、助けてくださるからです。神様の約束を思い、心のままをお話し、イエス様に「私を憐れんでください」と祈りましょう。誘惑の圧倒的な圧力は侮ることはできません。しかし自分で抵抗できないのですから、自分で戦うことをやめて自分の無力さがあるがままに祈りの中で神様に告白して、勇気をもってイエス様にすがります。聖書の約束のみ言葉を心に握りしめるのです。

たとえばこんな祈りです。「神様、今、私は強い誘惑にさらされています、あの人を憎みたいと思っています、みだらな思いになりそうです、言葉巧みにうまく人生を乗り切ろうと正直さがなくなろうとしています。そのほうが楽だし、楽しそうだし、自分の満足がありそうですし、こわいことを避けることができそうです。」そんな風に思っていたら、そのままを祈りましょう。そしてイエス様のみ言葉を思い出して続いて祈りましょう。「誰でもキリストにあるなら、その人は新しくつくられたものです。古いものは過ぎ去って見よ、すべてが新しくなりました、とあなたは約束してくださいました。神様、古い私の心ではなく、私の罪を赦すために死んで私を新しくするためによみがえってくださったイエス様によって、どうぞ憐れんでください、私が誘惑に従うことのないようにさせてください、私に正しいことをさせてください。」と心からの願いを祈ります。

イエス様は私たちが罪の支配から解放してくださいました。血の犠牲を払い、ご自分の生涯をもって私たちの罪を赦してくださいました。それは私たちが神様を信じて、正しく生きる命に歩むためです。今週もあなたは罪赦されて、あたらしい命をいただきました。あなたの置かれているところで、あなたの出会う方々を大切にします。あなたは人を支配したり、操作したり、憎んだり、羨んだりする誘惑に打ち勝ちます。威厳と謙遜さをもって、まわりに平和をつくるような信頼されることばを話します。朝から夜まで妥協に流れず塩気を保ちます。どんなときにも不機嫌にならず神様の希望の光を掲げます。隣人と一緒に幸せをつくって歩みます。

その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。マタイによる福音書 5 章 24 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあつて守ってくださいます。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあつて我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン
だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

讃美歌 354 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 飼い主 わが主よ 迷う我らを 若草の野べに 導きたまえ
我らを守りて 養いたまえ 我らは主のもの 主に贖わる
- 2 良き友となりて 常に導き 迷わば尋ねて 引き返りませ
我らの祈りを 受入れたまえ 我らは主のもの ただ主に頼る
- 3 赦しのみちかい 救いの恵み、きよむる力は 皆主にぞある
我らを贖い 生命をたまう 我らは主のもの 主に在りて生く
- 4 みいつくしみをば 我らに満たし 今よりみむねを なさしめたまえ
我らを あわれむ み恵み深し 我らは主のもの 主をのみ愛す **アーメン**

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏